

令和5年度第2回庄原市道徳教育推進委員会研修会

- 日時：令和6年1月31日（水） 13：10～16：35
- 場所：庄原市立西城中学校
- 対象者：庄原市内各小・中学校の道徳教育推進教師22名

目的

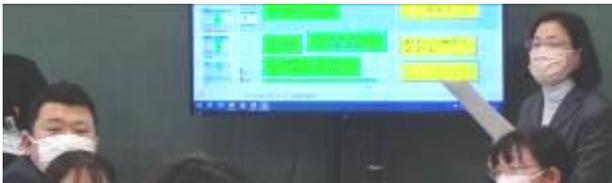
- ・児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながる道徳科の授業づくりのポイントについて研修を行い、具体的な指導方法を学ぶことができる。
- ・学校全体での組織的な道徳教育推進に向け、各校の取組について交流することを通して、次年度の計画の見通しをもつことができる。

研究授業 「お前のカワウソがさびしがっているぞ」

授業者 西城中学校 教諭 末田 和也

事後協議・指導・助言 「考え議論する道徳科の授業づくりについて」

広島県北部教育事務所 指導主事 砂走 愛



「深い学び」の鍵となる場面を発表している様子



教師の手立てにより議論を深める指導の在り方の様子

【事後協議・指導・助言の概要】

- 事後協議では、「『深い学び』の鍵となる場面」「『深い学び』を促した授業展開等の工夫」の視点について、生徒の発言内容をもとに協議を行った。
- 深い学びに導くための授業構想を行う上で、生徒実態を捉え、教材の特質を理解し、授業者の思いや願いを主題に込めることが大切である。
- 議論するためには、「よりよく生きるとは？」という「問いだけ」では、話し合いが進まなかったり、深まったりしない。大切なのは、いくつかの選択肢を与えたり、条件を変えたり、イメージをもたせたりといった指導の手立てが必要であることを体験した。

【参加者から】

- ・ 授業者の先生方と生徒との関係がとても良いと感じた。道徳の授業は学級づくりが要だと実感した。
- ・ 子供たちの写真や実話などを取り入れることにより、教材と実生活との関連に関心をもたせ、自身の生き方について振り返りをもたせることの大切さを学んだ。
- ・ 中学校になると、教材文も長くなり、話の内容を理解するのも難しくなってくる中で、スライドを活用し、教材文の内容を整理したり、ねらいに迫るための切り返しの発問を準備したりしておくことが大変参考になった。

実践交流・演習 「今年度の取組と次年度に向けて」

庄原市教育委員会 指導主事 砂走 敏和



各校が作成した全体計画をもとに取組について見直しをしている様子

【実践交流及び指導・助言の概要】

- 第1回研修会で計画した活動計画をもとに、今年度各校が実施した道徳教育に係る研修内容等を交流した。年間指導計画の作成についての演習では、重点内容項目の見直しとともに、教材の配列を意図的に工夫することについて確認をした。

【参加者から】

- ・ 教職員間ではもちろん、子供たちと重点内容項目について共有することを行っていく。
- ・ 教材の配列の工夫については、すぐにでも実施できそうなので、年間指導計画作成の際、伝えていきたい。
- ・ 今後は計画的・定期的に研修を行ったり、日々の道徳の授業について気軽に相談し合ったりできるような環境づくりに取り組んでいきたい。